

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障碍
のある人やひきこもり
者などの多くがもって
いる優れた感性と表

現力、そこから湧き出る独創的なアート
作品に対して、NPO 法人 障害者芸術
推進研究機構 (天才アート KYOTO)
が独自にネーミングしたものです。当
機構は天才アートを推進し、その啓発・
普及活動を積極的に行っています。

会 報
No. 34

天才 アート

発行日 2023年9月15日 (金)

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

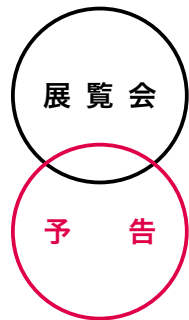
天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集協力 株式会社 三六六



庄野 隆太 Shono Ryuta 1989 年生 『不動明王 円隆寺』鉛筆・色鉛筆・画用紙 380×270mm 2023 年制作



第11回 天才アート展『OPEN STUDIOS 2023』開催迫る (入場無料)

第11回天才アート展「OPEN STUDIOS (オープンスタジオ) 2023」を、当機構拠点のきたアトリエ(ふれあい共生館内)にて開催します。作家の制作の場であるアトリエ内に登録作家40余名の作品を一堂に展示し、作家の制作の様子が読み取れる、臨場感あふれる展覧会は、ギャラリー展示とは違う面白さがあります。

なお、「OPEN STUDIOS」としてアトリエを会場に

開催するの
は今展が最
後となりま
す。来年度
以降、コロ
ナ禍の終息
も見込まれ
ることから、
市中のギャ
ラリーを会
場とする形
態に戻す予
定です。



第11回 天才アート展 2023 オープン・スタジオ

天才アート KYOTO きたアトリエ
京都市北区東野西岡町2-1 ふれあい共生館内
●観覧券は不要 ●会場は雨天・土曜日のみ入場無料
(雨天時は11時以降は入場無料となります)
(※観覧券、作家による制作ライブ開催)



第11回天才アート展『OPEN STUDIOS 2023』の告知ポスター

皆さまのご来展を心よりお待ちしております。

会期 2023年9月30

日(土)〜10月15日

(日)、11時〜17時

10月3日・10日休館

会場
当機構拠点
「きたアトリエ」

京都市北区紫野西

舟岡町2

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構

共催 京都市 京都市教育委員会

後援 京都新聞 京都新聞社会福祉事業団

京都市立総合支援学校長会

助成 北区民まちづくり提案支援事業

公益財団法人大阪コミュニティ財団

山口淑子友愛基金



天才アート展 at 京都教育大学の告知ポスター

第58回日本発達障害学会京都大会 協賛 『天才アート展 at 京都教育大学』 日程・会場変更のお知らせ

第58回日本発達障害学会京都大会に協賛し、全国から参集される研究者や同大学在学学生を対象に、天才アート KYOTO の作品をご覧いただくものです。一般市民にも公開され、入場無料です。

会期 2023年11月4日(土)9時〜17時
5日(日)9時〜15時

会場 京都教育大学 学生会館内
(京都市伏見区深草藤森町1)

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構

協賛 日本発達障害学会第58回研究大会

内容 原画作品数十点を展示予定

第8回 『公共空間にアートの彩り!』展

同展は、京都市などとの連携により、無機質になりがちな公共地下道などの空間に「アートの彩り」を添えて、華やぎや和みを醸し出す取り組みとして毎年開催しています。

B1判サイズの作品ポスターパネル50点を四条通地下道中央の柱に展示予定です。

会期 2023年11月上旬〜24年1月下旬

旬(詳細が決まりましたらHPでお知らせします)

会場 四条通地下道(麩屋町通下〜柳馬場通下間約100m)

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構

協力 京都市・阪急電車



昨年開催した第7回『公共空間にアートの彩り!』展

展 覧 会

報 告

第41回京都新聞チャリティー美術作品展『特別展示』に出展

2023年8月15日(火)～21日(月)に、京都高島屋7階イベントホールで開催された第41回京都新聞チャリティー美術作品展の《特別展示》「福祉のページ『わたしの作品』」原画展に出展しました。

この特別展示は、同紙の毎週月曜日朝刊に掲載された作品の原画を展示紹介するもので、本チャリティー美術展の第34回展より併催されています。チャリティー美術展に出展される各界著名人の作品とは趣の異



会場入り口に設けられた特別展示のスペース

なる作風・作品であることから、毎年好評を得ています。

東山区人権啓発展示

本展示は、東山区役所の委託により、8月の人権強調月間に合わせて2015年度から毎年8月に開催されています。本年は8月7日(月)より25日(金)まで、同区総合庁舎1階展示ホールで、当機構の作家の新作を中心に制作した作品ポスターパネル20点を展示しました。

作品ポスターパネルは、大サイズのB1判(タテ1030×ヨコ728mm)で、個性の際立つ作品やカラフルな作品などの魅力が、訪れる区民・市民に毎年好評を博しています。

(作品ポスターパネルは展示貸し出しや販



ポスターパネルが並んだ会場の様子

売もしています。詳細は当機構Webサイトをご覧ください)

高齢者の孤独・孤立問題を考えるプラザ会場の展示



ポスターパネルの展示で華やかになった会場

8月21日(月)から25日(金)までNTT西日本三条コラボレーションプラザで「高齢者の孤独・孤立問題を考えるプラザ」が行われました。会場の壁面に「天才アートKYOTO」の作品を展示してほしいという申し出があり、理事会で協議の上、時宜を得て有意義な取組であることから協力させていただきました。

会場には、他の展示事業でも使われることが多い大型のポスターパネルを8点と、

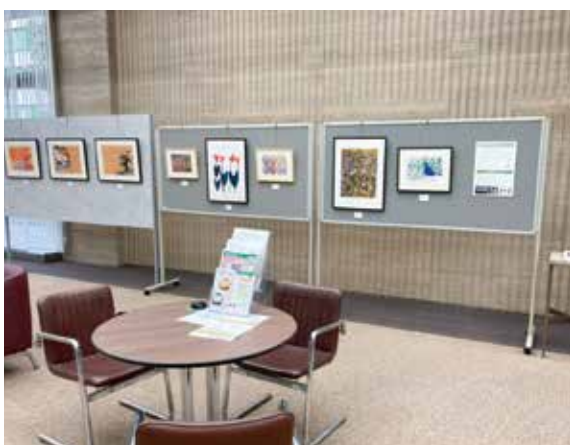
天才アート作品ポスター展の説明パネル1点の合計9点を展示しました。ポスターパネルの展示により華やかになった会場で、意義深い話し合いが行われました。

京都銀行本店ロビーで複製画展示

8月21日(月)から9月4日(月)まで京都銀行本店(烏丸高辻南西角)ロビーで複製画を展示させていただきました。

今回、京都銀行本店さまのご協力により、当機構の活動を市民の皆さまに理解していただき、支援の輪を拡大する目的で、複製画展を開催したものです。

京都銀行本店には毎日多くのお客さまが来店されますが、複製画の展示で華やかになった広いロビーでは、待ち時間に作品をご覧になる方がたくさんおられました。



展示された複製画作品

TENSAI ART NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー
ト



『マルサンカクシカクの人々』 キャンバス・アクリル絵の具 530×652mm
2022年制作

いしい こうた Ishii Kota 1995年生

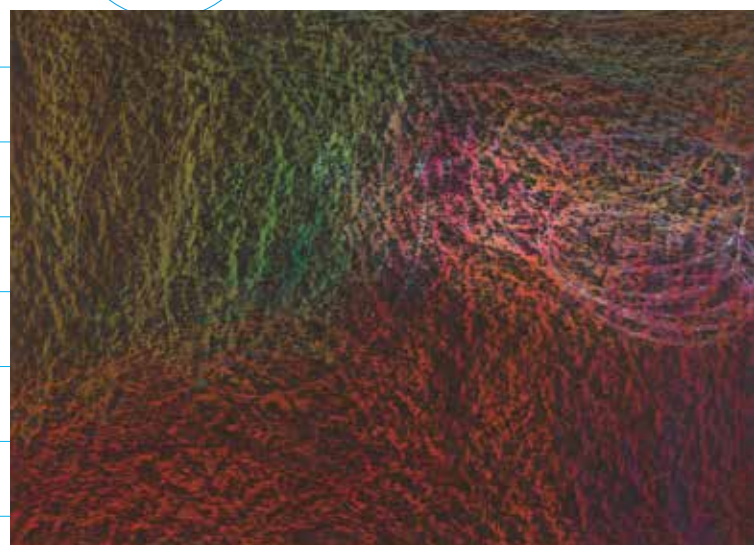
いしいの作品は、その多くが「人の感情」や「動物」をモチーフとしており、近代絵画や漫画表現などからの影響も貪欲に受け入れ、混沌（こんとん）とした世界を描き出します。アクリル絵の具やクレパス、鉛筆などを用いて、一度取りかかると止まることない雄牛のような勢いでパワフルに描きます。絵を前にすると観る者にはその迫力が伝わってきます。

いしい こうた



『知らんぷり』 キャンバス・アクリル絵の具 910×730mm 2021年制作

川嶋 誉大



『クレパスのグラデーション』 色画用紙・クレパス 390×540mm 2016制作

川嶋 誉大 Kawashim Yoshihiro 1996年生

川嶋はクレパスを寝かせて手に持ち、色画用紙にこすり付けることで、オール・オーバーな画面を必ず紙の表裏両面に描きます。彼はクレパスを「こすり付ける」という行為そのものを楽しんでいるのです。そこに生まれるものは奥行きや何かを描いた形もなく、色彩と痕跡があるのみです。彼が描く時はダイナミックに身体を全部使い、時にリズムをとりながら描いていきます。無心を楽しみながらも激しい動きから生まれた静謐(せいひつ)な画面は、見る人によって多彩な印象を抱かせます。

『無題』 キャンバス・アクリル絵の具 456×530mm 2022年制作



佐野 靖文

佐野 靖文 Sano Yasufumi 1970年生

佐野の作品の多くは、画面全体が絵の具で覆われる形式で描かれています。一見中心がないかのようなその絵を前にすると、鑑賞者はどこに視点を置くべきか戸惑うかもしれません。しかし、彼の作品を連作で観ると、実は一作品ごとに素材やタッチを変えていることが分かります。反復によって描かれる彼の作品をじっくり観ていくと、時に炎や煙のような不定形な形状に見えると同時に、絶妙な力加減で描いていった佐野の身体動作を想起させます。



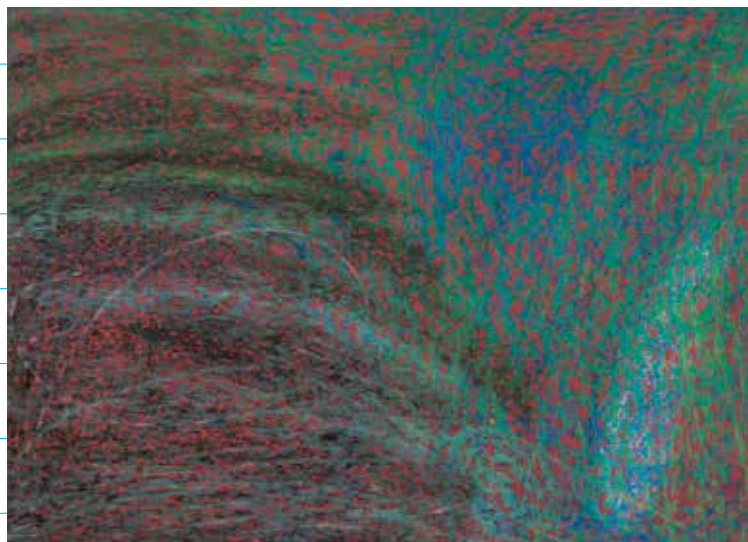
『無題』 キャンバス・アクリル絵の具 456×530mm 2022年制作



『無題』 キャンバス・アクリル絵の具 652×550mm 2022年制作



『クレパスのグラデーション』 色画用紙・クレパス 390×540mm 2016年制作



『クレパスのグラデーション』 色画用紙・クレパス 390×540mm 2016年制作

ご家族さま
より寄稿

絵嫌いが仏像大好きになるまで

西村さやか

●小さい時は絵が嫌い

天才アートのアトリエ会にお世話になってもう8年くらいになるかと思えます。今回寄稿のお話を頂いたことをきっかけに息子の21年間を振り返ってみたいと思います。紫苑は我が家の2番目の子として誕生しました。8カ月を過ぎたあたりから顔の表情が乏しくなり、発語もなく声掛けにも反応がない、目線もなかなか合わないことに気づきました。1歳半検診の時に声掛けに反応がなかったために難聴の疑いがあると言われ、耳鼻科での検査を勧められました。検査結果は異常ありませんでした。

次に発達検査を勧められ、そこで発達の遅れと自閉傾向があると診断されました。1歳8カ月から療育センターに週3回通園することになり、1歳10カ月で知的障害を伴う自閉症と診断されました。療育センターではおもちゃや友達にも興味がなく、走り回っているかマンホールや溝に小



仁王像と対峙する紫苑

石を落としてばかりでした。お絵かきに関してはペンを持つのも嫌がり何も描いてくれませんでした。3歳からは障がい児通園施設に通い、いろいろな経験をさせていたできました。多動はますますレベルアップし、大変な時期でもありました。

●絵を描き、仏像への目覚め

小学校から高校までは総合支援学校にお世話になりました。小学校低学年の時に絵を描くことにハマるきっかけが起りました。ペンを持つのも嫌がっていた息子がある日『トトロ』らしき絵を描いているのを見つけました。すぐすぐ褒めました。褒められたのがすごくうれしかったのか、そこから少しずつ絵を描くことに興味を持ち始めました。

もともとアニメも好きで、いろいろなジャンルのアニメを見ていましたが、たまたま見ていたアニメの登場人物に「大魔神」がいたことから仏像に興味を持ち始めました。仏像の手の動きや鎧の模様、顔の表情（特に怒り顔）がすごく好きで、仏像が見たくて寺巡りに夢中になりました。それから実物の仏像の迫力に魅了されたのか、仏像の絵を描くのと同時に立体像も作りはじめました。マジック・色画用紙・ダンボール・折紙・ティッシュペーパー・新聞紙、いろいろな材料を使って、ダンボール



アトリエでの制作風景

で体を作り、細かい模様はフリーハンドでハサミで器用に切ってみたり書いてみたり不思議とバランスの良い立体像を作り上げていました。立体像の中には内臓や骨、血管まで作ってこっそり中に入れているものもありました。立体像は仏像から始まり、ウルトラ怪獣・鬼・オリジナルキャラクターにまでジャンルが広がっていききました。これまでに作られた立体像は何百体もあります。

●いまは制作漬けの日々

天才アートの出会ったおかげで、家にひっそり積まれていたはずだった作品が、イベントなどできれいに展示されると立派なアート作品になり、たくさんの人に見てもらえ、少しですが感動や影響を与えられるものになりました。親として貴重な体験をさせてもらえてうれしいですし、展示されている自分の作品をとてもうれしそうに誇らしそうに見つめて

いる紫苑の姿を見ると、天才アートの参加して良かったとつくづく感じます。卒業後



立体作品（写真左）と閻魔大王や妖怪像（写真右）



はふしみ学園のやつほう班で毎日絵を描いたり制作をして過ごしています。家でも毎日ご飯・お風呂・トイレ以外はずっと絵を描いていて、生活の一部となっています。今は仏像や立体像の制作はほぼほとんど、オリジナルキャラクターのイラストを描くことが多くなっています。これからも自分の好きなものを好きなように自分のペースで楽しく描き続けていってほしいと思います。

トピックス

レポート

作品アーカイブの利用拡大中

当機構では、収蔵作品4500点の内、現在2600点を高精細のデジタルアーカイブ化して広く公開し、さまざまな分野・シーンでの活用を促進しています。

これにより障害のある人の芸術作品の浸透を図り、その評価を高めることを目指しています。また、アーカイブの活用による収益を作家に還元し、経済的自立に貢献します。

これまで、企業や社会団体等の広報誌や機関誌への採用のほか、商品のパッケージ等にも採用されています。

また近頃は、「生活シーンにアートの彩りを！」のニーズが高まってきており、作品だけでなく高精細の「複製画」を求める方が増えてきています。当機構でも複製画を制作していますが、広くアーカイブを公開していることから、「アート作品レンタル」の企業等からも引き合いが来ています。アーカイブデータや複製画を提供している2社さまの事例を紹介します。

株式会社レント（本社：静岡市）

建設機械から産業用機械、レンタルカー、アート、通信機器へと広がるレンタル事業を全国に展開されています。さらにパッテ

リー再生や教育事業も手掛ける総合サービス企業へと「レンタル」をベースに、さまざまなビジネスへと事業領域を拡大中です。

- ・当機構の作品アーカイブ20点ご採用
- ・複製画の月額サブスクリプション

<https://www.rent.co.jp/art/>



合同会社 Amiami（本社：京都市）

知的障害者と健常者の壁を「編み目」に変える原動力になりたいという思いから、知的障害者のアート作品を、福祉活動や障害者アートという枠組みだけに当てはめず、その素晴らしさを世界に広めるためのビジネスを展開されています。

- ・当機構の作品アーカイブ36点ご採用
- ・複製画の月額サブスクリプション

<https://www.amiami.shop/>



スコットランドのアーティスト支援団体とオンラインイベントを開催

スコットランドのアーティストを支援するネットワークプロジェクト「Culture Collective」とのコラボで、オンラインイベントを開催します。

開催日は、2023年9月20日（水）18時（日本時間・現地とは時差が8時間）で、誰でも無料で参加できます。日本語の通訳がありますので、英語ができなくても支障ありません。参加ご希望の方は、以下のサイトから申し込んでください。

<https://www.culturecollective.scot/events/international-perspectives-4-tensai-art-kyoto/>



「Culture Collective」は、アーティストやクリエイティブ組織とともに地域コミュニティによって形成された26の参加型アートプロジェクトのネットワーク。イベントのテーマはWell-being（ウェルビーイング）とアートの力、芸術と障害などで、スコットランドと日本の考え方の違いや社会環境、芸術を取り巻く環境の違いなどについて話し合われる予定です。



その夢は、未来に続く。

ムラテックは未来を見据えた柔軟な発想力と先進の技術力で、豊かで夢ある社会の実現をめざします。

- 繊維機械
- ロジスティクスシステム
- ファクトリーオートメーション
- 半導体工場FAシステム
- 工作機械
- シートメタル加工機
- デジタル複合機／情報機器

村田機械株式会社

本社：京都市伏見区竹田向代町136
<https://www.muratec.jp>

muratec



22年度事業報告、23年度事業計画および著作権説明会を開催

作家ならびに家族向けに、6月25日（日）と7月8日（土）のいずれかに参加していただく方式で、22年度事業報告、23年度事業計画および著作権説明会を東山アトリエにて開催しました。

過去3年はコロナ禍の影響で活動の制約もあり、厳しい状況が続きましたが、22年度は、京都の地元企業・団体さまなどから特別協賛などのご支援をいただくことで、3期ぶりの黒字決算となりました。

23年度も継続して特別協賛などのご支援が頂けることは確定しており、活動の制約も徐々に解除されることから、新規の登録作家の増加や積極的な事業の展開など、活動の拡大を進めていく予定です。



東山アトリエでの説明会

企業・団体の助成、協賛の募集

当機構の運営予算の多くは、企業さまや団体さまの助成金や協賛金などによって支えられています。

NPO法人として2011年の活動開始以来、登録作家は15人から50人弱と3倍超になり、『天才アート展』や『青空美術館』などの各種展示事業、作品収蔵と作品アーカイブ事業、『会報』発行などの広報事業等々幅広く取り組んでいます。

展示や協働事業などのオフアワーが年々増えてきており、画材費の高騰などとともに資金の確保が常に課題となっています。さらに多くに企業などのご助成やご協賛の支援をお願い申し上げます。

【特別協賛などの企業さま・団体さま】

（株）SCREENホールディングスさま

一般財団法人NISSHA財団さま

（株）村田製作所さま・村田機械（株）さま

＜編集後記＞

地球温暖化ではなく地球沸騰化と言われるほど、今夏は厳しい暑さが続きました。熱中症対策から歩くのを控えるほどでしたが、徐々に秋の気配が感じられるようになりました。

来月はいよいよ天才アート展の開催で、アトリエを会場にするのは今回が最後になる予定です。創作の現場を見ていただくという展示のスタイルは、ギャラリーとは違った臨場感が好評でした。しかしながら交通アクセスの面や認知度の低さから、来場者が少ないのが悩みの種でした。

来年以降、市中のギャラリーを会場にすることで、多くの市民の皆さまに作品を見ていただける機会が増えることに期待が膨らみます。登録作家の皆さまも大いに作品制作に励んでいただけたら幸いです。

HAGURUMA



【表紙の作品について】

庄野が描く動物たちや仏像、そして過去の名画はすべて「平面」に変換されます。彼の手にかかるとモチーフは正面か、または横を向けられ、奥行きを奪われ紙に張り付き、ユーモラスにデフォルメされてしまいます。

鑑賞者はそのユーモラスなところに微笑んだとき、庄野が創り出した「平面の世界」へと引き込まれていくようで、そんなある種の独特の雰囲気も彼の作品の魅力の一つです。



庄野 隆太 Shono Ryuta 1989 年生
『不動明王 円隆寺』鉛筆・色鉛筆・画用紙
380x270mm 2023 年制作

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**（株）共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

お客様に寄り添い、安心と安全をお届けします
総合リスクコンサルタント
株式会社プラニ
☎ 075-353-2522

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
（有）森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業（株）

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

SCREEN

一般財団法人

NISSHA財団

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院